



研究会・研修会等への

報告者・講師の派遣

(平成十四年十月～
十五年三月)

○第104回北海道農業経済学会 研究大会

主催 北海道農業経済学会

とき 平成14年10月9日

テーマ 近年の北海道農村の変動

類型分析

報告 七戸長生

(当研究所・所長)

○酪農学園大就農コース特別講義
主催 酪農学園大学
とき 平成14年10月31日

テーマ 財務管理と経営改善
講義 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○長沼農民塾

主催 JANAがぬま

とき 平成14年11月19日

テーマ 地域農業改革の担い手と
役割

講義 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○長沼町議員・農業委員会合同研修会

主催 長沼町

とき 平成14年11月22日

テーマ 北海道農業の直面する課
題と長沼農業の進路

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○JAIいわみざわ野菜部会合同研 修会

主催 JAIいわみざわ

とき 平成14年11月27日

テーマ 道央稲作農業と野菜作展
開の条件

開の条件

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○蘭越集落づくり研修会

主催 蘭越町農業委員会

とき 平成14年11月28日

テーマ 北海道農業の課題と集落
活性化の取り組み

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○空知女性フォーラム

主催 空知支庁

とき 平成14年12月3日

テーマ 空知農業に求められてい
るもの

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○東鷹栖農連総会研修会

主催 東鷹栖農連・JAE東鷹栖

とき 平成14年12月5日

テーマ 米政策大綱と稲作農業の
方向

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○北村米改革フォーラム

主催 北村・JAIいわみざわ

とき 平成14年12月8日

テーマ 新米政策の始動と北海道
稲作農業の展開方向

司会 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○伊達市集落活性化懇談会

主催 胆振支庁・胆振西部地区
農業改良普及センター

とき 平成14年12月11日

テーマ 農業の直面する課題と集
落農業のありかた

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○第1回日高農業塾

主催 日高支庁

とき 平成14年12月19日

テーマ 日高農業の多角化と複合化

講義 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○釧路支庁経済セミナー

主催 釧路支庁

とき 平成15年1月30日

テーマ 農業と建設業の連携の
可能性をさぐる

講演・司会 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○北農中央会青年大学

主催 北農中央会

とき 平成15年2月3日

テーマ 経営センスの活かし方

講義 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○滝川市経営改善研修会

主催 滝川市

とき 平成15年2月12日

テーマ 新米政策大綱と農業者の
対応

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○長沼報徳社研修会

主催 報徳社長沼支社・長沼町

とき 平成15年2月19日

テーマ 古人に学ぶ「人づくりと
地域おこし」

講演 黒澤不二男

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○岩見沢市経営改善研修会

主催 岩見沢市

とき 平成15年2月20日

テーマ 新米政策大綱と農業者の
対応

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○上磯町経営改善研修会

主催 上磯町

とき 平成15年2月24日

テーマ 新米政策大綱と道南集約
農業の方向

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○幕別農業アカデミー

主催 幕別町農業振興公社

とき 平成15年2月25日

テーマ 十勝畑作農業と野菜作の
位置づけ

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○西神楽集落づくり研修会

主催 上川支庁・旭川地区農業
改良普及センター

とき 平成15年2月27日

テーマ 地域農業の点検とシステ
ム化の取り組み

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○日高軽種馬セミナー

主催 日高支庁

とき 平成15年2月28日

テーマ 日高軽種馬農業の構造改革
司会 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○月形町経営改善研修会

主催 月形町

とき 平成15年3月15日

テーマ 新米政策大綱と農業者の
対応

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○厚真町集落づくり研修会

主催 厚真町

とき 平成15年3月18日

テーマ 集落ビジョン実践のフ
ォームをさぐる

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○長沼町クリーン
農業セミナー21

主催 JANAがぬま・長沼町

とき 平成15年3月19日

テーマ 米生産調整をめぐる新
な農業の展開

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○第3回日高農業塾

主催 日高支庁

とき 平成15年3月25日

テーマ 日高農業の展開方向
司会 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○JAたいせつ記念講演会

主催 JAtaiせつ

とき 平成15年3月27日

テーマ 新米政策大綱と今後の稲

作農業の方向

講演 黒澤不二男

(当研究所・常務理事)

○幕別農業アカデミー

主催 幕別町農業振興公社
とき 平成15年3月28日

テーマ 農業経営者の直面する二

つの課題

講義 七戸長生

(当研究所・所長)

雑誌への投稿の実績

(平成十四年十月)

十五年三月)

○黒澤不二男

「激変の経営環境―営農計画を
見直す―」

「労働計画の点検」

ニユーカントリー

2002年11月号

北海道協同組合通信社

2002年10月

○黒澤不二男

「北海道農業総力展望」

「基盤 整備事業」

ニユーカントリー

2003年1月号

北海道協同組合通信社

2002年12月

○黒澤不二男

「再編の波・JAの営農指導体制」

「今、農協営農指導に求められる
もの」

ニユーカントリー

2003年2月号

北海道協同組合通信社

2003年1月

○黒澤不二男

「特集：重要性高まる計数管理
の取り組み」

「必要高まる農業経営の計数管
理と農業者の対応」

「北方農業」

2003年2月号

北海道農業会議

2003年1月

○井上誠司

「上層農形成の停滞と地域農業
の新たな展開」

「農業問題研究」53号

農業問題研究学会

2003年2月

◇研究所学術叢書の発行◇

「酪農経営におけるふん尿処
理の現状と展望」

「道内外の事例をふまえて」

「家畜排せつ物管理の適正化及
び利用の促進に関する法律」の下
で、関係機関の役割と問題解決に
向けた取り組み状況について、道
立根拠農試と共同研究をおこなっ
た。道内外の事例を紹介するとこ
もに、環境保全行動の誘導にかか
る提言を試みた。

著者 北海道立中央農業試験場

経営科長 岡田正樹

(社)北海道地域農業研究

所特別研究員

木村正洋

定価 2,000円

(税、送料込み)

「ボランティアと農協」

「高齢者福祉事業の開く扉」

農協における高齢者福祉事業と
いう新しい事業を、非営利組織全
般に視野を拡げた上で、位置づけ、
農協事業として捉え直している。

なお、本書は当研究所平成14年
度出版助成の対象となった。

著者 北星学園大学経済学部

助教授 田淵直子

定価 2,600円

(税、送料別)

第13回通常総会の開催

とき 平成15年5月20日(火)

午後1時

ところ

札幌市共済ビル7階

「未広の間」

※引き続き特別講演

DATA FILE

関連事項/ DATA

早稲田大学政治経済学部

〒 169-8050

東京都新宿区西早稲田 1-6-1

☎ 03(5286)1219

北海道東海大学国際文化学部

〒 005-0825

札幌市南区南沢 5 条 1-1-1

☎ 011(571)5111

蘭越町農業委員会

〒 048-1392

磯谷郡蘭越町 258 番地 5

☎ 0136(57)5111

栗山町農業振興事務所

〒 069-1591

栗山町松風 3 丁目 299-3

☎ 01237(3)2500

北海道農業会議

〒 060-0001

札幌市中央区北 1 条西 7 丁目
プレスト 1・7

☎ 011(281)6761

豊頃町農業協同組合

〒 089-5235

豊頃町中央若葉町

☎ 01557(4)2101

(社)北海道地域農業研究所

〒 064-0004

札幌市中央区北 4 条西 7 丁目 1

☎ 011(281)2566

E-mail : kaihou@chiikinouken.or.jp

七戸所長退任記念講演

(第 13 回通常総会特別講演)

テーマ：よみがえる 21 世紀の農業

～どう進めるか体質改善～

深い洞察と限りない愛着をもって語る、
農業・農村に対する警鐘とエール

日 時：平成 15 年 5 月 20 日(火)

午後 2 時～

ところ：札幌市北 4 西 1 共済ビル 7 階

編集後記

「南部煎餅は岩手食文化の象徴といえる」。この春、盛岡に旅する機会があり、とても強く感じました。老夫婦のみで営むような小さな煎餅屋が沢山ありました。勿論、大手で大量生産の煎餅屋はありますが、小さな煎餅屋は駆逐されていきません。

訪問した数軒の家で、悉く南部煎餅がお茶受けて出されました。「こんな物しなくなつてね。まるで、農家が採れたての野菜料理でもなす時のセリフです。新幹線が走り、求めさえすれば各地の産品が手に入る盛岡で、南部煎餅はすっかり足場を固めていました。「まずは、食べてくなんせ」と出てきた味噌汁の具は南部煎餅でした。単なるお土産品、名物・銘菓としてではなく、その土地の人々に愛され、日常的に食されているからこそ、小さな煎餅屋が生きて残れるのでしょう。あそここの煎餅は固い「いや歯応えは一番」香ばしさは〇〇屋が上」などと、話

題は尽きません。私は、間引き時期に人参の葉の天ぷらを馳走になったことを思い出しました。その香り高い味は忘れられません。土地の産品を慈しみ育てる、そんな食文化への出会いを求めて、ブラリと旅をしたいと思いはじめています。ご挨拶が送れましたが、今年度から編集を担当します。小樽生まれ函館で青春を迎え、学生時代から約四〇年は札幌と、生粋の道産子です。よろしくお願ひします。(奈良孝一)